

## 蕎麦を打つ！



米森 寿美男

いつか蕎麦を自分の手で打って食べてみたいとの思いがあった。

郵便局を退職して、第二の人生をどのように過ごすかと考えて、実家の傾きかけた家を何とかリフォームして、裏の畑で蕎麦を育て、粉にして自らの手で練り、手打ちの蕎麦を食べてみたいと目標を掲げた。

蕎麦打ちのための道具を買い集め、「道の駅」でそば粉を求め、YouTubeで蕎麦打ち名人の技をしっかりと目に焼き付け、その通りに打ってみてはボンボソの蕎麦になり、何回打っても上手くいかない日々が続いた。

### 一、農業のすすめ

それでも畑は待つてくれないので、まずは草刈り機を購入して草を刈り、時間はたつぷりあると思い、鍬を担いで耕してみたもの、すぐに息が上がってしまった。体力の無さに改めて気づかされてしまった。こんなことでは農家にはなれないと思い、トラクタターで耕してもらい、あっという間に畑に大変身した。

畑の隅に先ずは、夏野菜を少し植えてみた。そこそこの期待に伝えてくれて、トマト、ピーマン、オクラ、キュウリ、ゴーヤを収穫できた。トウモロコシを五本植え、実が付いて「これはいける。」と思った時には、敵もさるものでおいしくなる瞬間を見逃してくれず、翌日には食い荒らされていた。敵は見事な羽を持ったキジでオスと二匹のメスが手を振って歩いていた。これからは、トウモロコシは買って食べるのが正しいと肝に銘じた。

トマトは一気に実を付け、オクラはすぐに大きくなり、収穫時期を逃すと筋が出来て硬くなる。ゴーヤが大きくなるのを待っているとすぐに黄色く色付いてしまい、収穫時期を逃してしまおう。

けれども、苗から植えた作物が大きくなっていくのを見るのは、大きな楽しみであり、色々と想像を掻き立ててくれるものである。途中で枯れるものもあるが、一番の敵は天気であり、味方であるのも天気である。

## 二、蕎麦を育てる

農業一年生の夏、長年の夢であった蕎麦を自分で育て、手打ちして食べることを実現しようと思ひ、その道のプロである親戚の叔父に相談し、蕎麦の実を探して貰うことにした。

蕎麦は植えるための前準備がほとんど不要であり、植えてからも手が掛からないと言ふ素晴らしい作物である。これが蕎麦を育て

るきっかけであり、刈り取りをどうするかも教えていただき、「農業公社」というところがコンバインを持って来て一網打尽であつという間に刈り取ってくれるらしいと聞いてなんとかやれる見通しを立てることができた。そのあとの製粉をどうするかという問題も、近くに小麦粉とそば粉を作っている製粉所があり、渡りに船であつた。

蕎麦の実5kgを仕入れて貰ひ、植える準備を開始した。五アールの畑に50cm間隔で筋蒔きをする。これも結構きつい作業であるが、娘が手伝ってくれて、何とか蒔き終わった。その瞬間から、スズメ、鳩やカラスが格好の餌場であるかのように飛んでくる。彼らは人間が何をするかを、よく見ているのだと感じた瞬間である。そこで対策として、釣り用のテグスを張り巡らして防御を試みたら、まずまずの効果があつた。



5アールの畑に花を咲かせた蕎麦

本当に手間が掛からずにどんどん成長し、一週間後には双葉が出てきて、すくすくと成長して、二か月もするときれいな花を咲かせてくれる。白く可憐な花は、眺めているだけで感動を与えてくれる程に見事である。そして、ミツバチが何処からか現れて、ぶんぶん飛び回っている。驚く程すごい数が集まってくる。おおいに働いてほしい、ミツバチ様様である。

どんどん実がついて来るようになり、刈り取りが近づいて来たので、「農業公社」に依頼して、刈り取りに来てもらい、コンバインで一気に収穫してもらい、三〇分で刈り取り完了、二十七kgの収穫があった。

ここからは地道な作業が必要である。『まずは蕎麦の実と、実より小さなゴミを取り除き、さらに大きなゴミを地道に取り除く作業が大変だ。』それから天日干しで乾燥させて

粉にする準備をして、それを製粉機がある「ひまわりの家」に持ち込み、乾燥具合を計測して、基準を満たしていれば、粉にしてくれる。一週間以上天日干しさせたので合格だった。

### 三、蕎麦を打つ！

待ちに待った喜びの瞬間、自分で育てた蕎麦からそば粉十九kgが出来上がったので、早速蕎麦打ちに掛かってみる。

水回しが重要とビデオでも言っているの  
で、三回に分けて混ぜながら入れると少しづつ玉が大きくなっていく。練りは出来るだけ早くして、のしは十円玉の厚さになるように  
と思つてやるが、そんなに簡単ではない。切りの段階でも出来るだけ細くと思いつつ切つていくがなかなか真つ直ぐに切れない。

次は茹でだ。そこそこ大きな鍋を買ったが、きれいに茹で上げるのは深い鍋が必要だと思つた。それにしても、蕎麦湯は大層美味しい

のである。その上、血糖値を下げる効果があるのだ。

そんなことに注意しながら何回か繰り返して蕎麦を打つてみたが、出来たのはそこそこの田舎蕎麦であつた。

一年目の蕎麦は、味は良かったが、「そばじゅい」(鹿児島ではたつぷりの鶏肉や野菜と太い蕎麦が入っている。)と呼ばれるぐらいは出来るようになったと思える。

### 四、麦秋を見たい！

畑では、蕎麦の収穫後に堆肥をいっぱい入れて、小麦を植えることとした。

冬の風物詩である麦踏みをするために十二月初めに種を蒔く。これは、少し畝を作り一〇cm間隔で三〜四粒を蒔いていく、これが難儀である。

年を越すと小さな芽が出て来るので、孫を連れて来て麦踏みを経験させると最初は夢中



麦踏み体験

でやっているが、その内に飽きてくるよう  
踏み込みがいい加減になって来る。我々が小  
さい時もそうだったので、仕方ないことかも  
しれない。

途中で畝を上げて麦の穂が倒れないよう  
にするのと草取りを兼ねて、鍬を入れていく  
のが大変な作業である。それでも青々と広がる  
麦の穂にも癒しをもらえるのは最高である。  
麦秋を迎え、黄色く色付いた小麦を刈り取  
る時が来る。「農業公社」のコンバインを願  
いして、一気に刈り取ってもらおう。こちらは  
1kgの種を蒔いて、三〇kgの小麦が収穫でき、  
ゴミと格闘して天日干しの乾燥を繰り返して、  
何とか小麦粉にすることができた。

手打ちうどんを早速試してみることにす  
る。水と塩の加減と寝かせる時間で、麺の硬  
さやこしに差が出て来る。これももともと勉強  
して美味しいうどんを楽しみたいものだ。小

麦の利用方法はたくさんあり、麦茶は絶品、お好み焼き、天ぷらなど貴重である。

### 五、夏の新蕎麦に挑戦

三年目の春、三月末に蕎麦の種を蒔き、夏に収穫して夏蕎麦を食べてみたいと思いい挑戦した。順調に芽が出て、花が咲き、今回はミツバチの巣箱まで用意して、受粉を助けてたくさん実を付けてもらおうと頑張った。そして、六月の梅雨時の晴れ間を狙って、「農業公社」からコンバインをお願いして、刈り取ってもらった。コンバインの調子がおかしいのか、ゴミが詰まるような音がしているのととであった。収穫が心配だったが、何とたったの1kgしか収穫出来なかった。「くっ！、残念無念。」

春蕎麦はこの辺では、ほとんど作っていないとのことである。それは天気が悪いことと関係しているのか、それとも春蒔き用の種が

あるのかもしれない。これからは、秋収穫の蕎麦に専念しようと思った。

### 六、農業は難しい

美味しい手打ち蕎麦が出来るまで、育てて収穫を繰り返したいと思うが、「蕎麦打っ！」は、奥が深い。

今年も種まきの時期が来ているので、着々と準備をしているところである。どんな蕎麦の花が咲くのか、どんな実がなるのか、大いに楽しみだ。出来た時の夢を見ながら作業を続けていくが、ホントに農業は難しい。

(元入来郵便局長)

